

資源リサイクル率 10年連続日本一記念大会

10月1日(日)、町中央公民館において、『資源リサイクル率10年連続日本一記念大会』が開催されました。会場には、各地区の衛生自治会長や町議会、民生委員など関係機関・団体から400人を超える参加がありました。

これは、環境意識のさらなる高揚と住民・企業・行政が一体となって取り組んでいるリサイクルの取り組みを次世代へつなぐことを目的に開催されました。

町長は、ごみ分別を始めたきっかけや経緯を説明し、「10年連続日本一」を節目に次



前大崎町衛生自治会長として活躍された遠矢文雄さん



基調講演を行う寺井 徹さん(環境省)

なるステージへ進む必要がある。」と話し、今後の取り組みに向け抱負を述べました。大会では、平成12年から11年間、大崎町衛生自治会長として活躍された遠矢文雄さんへの感謝状贈呈や大崎町リサイクルコンテストの表彰式、最優秀作品の発表が行われました。

また、環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 室長補佐の寺井徹さんによる基調講演も行われ、参加者らはリサイクルの取り組みの重要性を再認識しました。

○作文の部 最優秀賞(小学生低学年部門)

『リサイクル日本一のぼくの町』

ぼくがすむ大きき町は、「リサイクル十年れんぞく日本一」の町です。ごみの分べつにもたくさんしゅるいがあって、いえでもごみの分べつはきちんとしています。分べつで分からないものがあると、おかあさんに聞いてすてていただきます。たまに分べつをまちがえると、おかあさんに、「このごみは、紙ごみやなくてフラごみのほうだよ。」とちゅういされます。はじめは分べつのしかたがわからなかつたけど、自分で分べつするようになってから、「紙は青のごみぶくろ」「ビニールやプラスチックはピンクのごみぶくろ」というようにだんだん分べつをおぼえてきました。月一回のしげんごみの日に、おかあさんの手つだいに

しげんごみすて場に行きました。一か月分のしげんごみを車につんで行くと、おじさんたちがごみをおろすの手つだつてくれます。ぼくもしげんごみをおろすの手つだつていると、「ごみを分べつしてしげんごみに分けてくれてありがとう。」

とほめてくれて、つぎのしげんごみの日がたのしみになりました。しげんごみを回しゅうする人たちもいます。ひし田のなかだけでも、なんかしょもあるごみすて場を回っているのど、「本とうにすごいなあ。」と思います。回しゅうされたごみは、いろいろなものに生まれかわります。そしてまた、ぼくたちの生活の中であつていくのです。この前、先生が「大きき町では、生ごみもひりょうにリサイクルされるんだよ。」と教えてくれました。生ごみでもぼくたちの生活のやくにたつていることをはじめて知りました。

ぼくのすんでいる大きき町は、たくさんの方ががんばつてごみをへらしたり、きちんと分べつをしたりしています。町の人みんなできょう力しているから日本一の町になつていくと分かりました。ぼくも大きき町の子どもとしてがんばります。



菱田小2年 大塚由樹さん